

小金井市長 稲葉孝彦様

## 2015 年度 予算要望書

私たち「小金井生活クラブ運動グループ地域協議会」は小金井市の6団体で構成され、大気汚染調査や野川の川辺環境調査、一言提案活動など、まちづくりを市民自治で行うためにさまざまな活動を続けています。

私たちは、毎年、市民の声を市政に活かすため、暮らしの中で感じた意見や提案を「一言提案」というアンケートの形で募集しています。今年は、50名の市民の方々から回答をいただきました。

特に、育児や介護を担う世代から、それぞれの事情に合わせ、多様な働き方や暮らし方を求める声が寄せられ、ニーズに対応できる政策が求められています。また、ペットボトルなど資源リサイクルには自治体の財政負担が大きく、市民の努力でできることをしたいという声もたくさん寄せられていました。そのためには行政と市民による協働が必要です。

私たちはこのアンケートを基に、政策にまとめ、予算要望書という形で小金井市に提案いたします。市長をはじめ、各担当課の方々には、暮らしのなかから生まれた市民の声を、出来るだけ、来年度の予算に反映していただけますように、お願い申し上げます。

2014年10月3日

小金井生活クラブ運動グループ地域協議会  
所属団体

生活クラブ生協 まち・小金井

NPO 法人 はあとぽっと

NPO 法人 ほっとわあく

NPO 法人 ACT たま居宅介護支援事業所

土ようのたまり場

小金井・生活者ネットワーク

## ■ワーク・ライフ・バランスを実現できる小金井市に

男女共同参画が進められている中でも、相変わらず、子育て・介護は多くの女性が担っているのが現状です。近年、「イクメン」と呼ばれる子育てをする父親がクローズアップされていますが、育児休暇や介護休暇をとる男性はまだ少数です。一人ひとり、それぞれの事情があり、様々なライフスタイルを選択できるしくみが求められています。

アンケートの中に「小さな子どもがいるので小金井から都心に働きに行くのはとても無理。小金井市内でも募集が少なく、仕事をするのは大変です。」「待機児童数が東京都の中で上位に入っている。親が安心して子どもを預けられる場所を増やしてほしい。」という意見がありました。また、多くの回答者から、地域のコミュニティを再生することでこうした問題の解決につなげていこうという提案が寄せられています。特に2011年の震災・原発事故以降には、コミュニティの再生を求める声が増えています。

一方、小金井市でも高齢化に伴い、空き家の発生率が高まり、対策を求める声が増えています。「空き家を個々の問題として放っておかず、保育できる場所、お母さんたちのたまり場、お年寄りの集まり場、介護する人の憩いの場などを歩ける範囲に設置できるよう、援助の手をさしのべてほしい。」というような空き家の活用を求める意見が多くありました。そのために行政ができることを、考えていく必要があります。

地域の中でお互いに助け合える関係を築き、その中で人生設計に合わせた仕事の持ち方や社会参加の仕方ができるようにしていくことを求めます。

### ① 空き家活用を進め、生活スタイルに合わせた働き方や子育てを応援する

- (1) 子どもの保育所や一時預かりなどに空き家を利用し、市の呼びかけ、仲介によって利用できるようにする。そのために、市が空き家を募集してデータベース化し、使いたい人とのマッチングをするしくみ、また、事業の立ち上げや展開のときには、空き家利用の家賃補助やリフォーム代の補助で市が後押しする制度を求めます。
- (2) 放課後の見守り・学童後の親の帰宅までの預かりなど、地域で子育てをする環境を作ることが求められています。また、夏休みなど長期休暇中の子ども（小学生）の居場所がないこともあり、空き家を利用して地域の人が運営する居場所をつくることを求めます。
- (3) 現在、世田谷区などで、家庭的保育事業の保育所実施型とグループ保育型ができています。市でも導入を進めることで、待機児童の解消とともに空き家対策にもなると考えます。また同時に、多様化するニーズに柔軟な対応ができるようにすることが求められています。特に子どもが小さい時期の子育てや親の介護などの時期に、働きたい時間にもてもらえる、仕事に復帰したい時にできる環境の整備を求めます。

## ②子どもの育ちを応援する学校教育の推進を

- (1) 教師の事務処理にかかる時間が増えています。教師が生徒と向き合う時間を多く取れるような制度をつくることを求めます。
- (2) 学校給食は自校方式が存続することを求め、栄養士間でも食の安全について学習する機会や情報の共有を求めます。
- (3) 日の丸、君が代を強制するような卒業式や入学式を止めて、保護者や生徒の意見を最大限に尊重することを求めます。
- (4) 平和教育を推進するために、修学旅行は沖縄県や広島市、長崎市を優先的に選択できるようにすることを求めます。
- (5) 9月の新学期になっても、酷暑の中で授業が実施されています。来年に向け、教室の温度を下げるために、市内全学校で「緑のカーテン」を設置するための検討をお願いします。
- (6) スクールソーシャルワーカーが5人から2人に減員されました。せっかく拠点方式で学校や子供たちとも顔なじみになりつつあったところでありとても残念です。単年度雇用から継続雇用になった利点を生かすためにもワーカーの増員が必要です。拠点方式での増員、配置を求めます。
- (7) 担任教諭にも正規職員だけでなく非常勤教諭が増えています。教員同士の学年団としてのまとまりや、指導力、継続性などに保護者からは不安の声が上がっています。教員の労働環境としても、質の低下は意欲の低下を招きかねません。教育予算をもっと増やし、子どもたちの学ぶ環境を整えることを求めます。
- (8) 小学校入学時に発達障害だと思われる子どもの割合が増えています。担任1人ではカバーできない部分があると考えられます。2年生までは副担任を配置するなどの対策を求めます。

## ③子どもが育つ環境整備の推進を

- (1) 学校以外で安心して遊べる場所・ボール遊びができる公園や、友達とくつろぎストレスを解消できる居場所を公共施設に確保することを求めます。
- (2) 子どもたちが時間制限付きで、花火や焚き火などできる場を求めます。焚き火などを囲むと大人も子どももコミュニケーションが生まれます。
- (3) 気軽にいつでも集える親子広場を身近な地域に増やすことを求めます。
- (4) 公民館と児童館が併設されている施設などは、高齢者専用の部屋を開放して、子どもと高齢者がともに交流できるような場づくりを進めることを求めます。
- (5) 恵まれた自然環境を生かした保育施設や老人介護施設をつくってほしい。子どもがのびのびと遊ぶ経験がもてる環境を増やすとともに、待機児童のない市になってほしい。
- (6) 病児保育の体制を進め、働きの家族が安心して子どもを預けられる環境を進めることを求めます。

(7) 通学路のブロック塀を生垣にするなど、災害時の安全対策として市民への協力を呼び掛けてほしい。

(8) 乳幼児健診など、若いお母さんたちが頻繁に利用する「保健センター」への交通アクセスが不便です。保健センターを循環するCOCOバスの運行路線を求めます。また、東小金井地域での「出張検診」ができるようにしてほしい。

#### **④年金・医療・障がい者福祉・介護保険など、使いやすい福祉の整備を**

**高齢であっても、障がいを持っていても、安心して暮らすためには、公的制度の充実と市民同士のお互い様や助け合いのネットワークのような仕組みが必要です。**

(1) 2015年の介護保険制度改定に伴い地域支援事業の見直しがされようとしていますが独居の方や高齢者世帯の在宅生活を支え、生活の質を保つためにも、地域支援事業の充実を求めます。

また、制度改定で介護保険が利用できなくなる予防で訪問・通所を利用している高齢者が今後も現在と同等のサービスを相応の金額で利用できるよう小金井市の方針を早急に示してほしい。

(2) 医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域住民の参加や市民活動団体等が参画できるよう支援体制の充実・強化を求めます。

(3) 障がい者福祉サービスは、利用者のニーズに基づいて中立・公平なサービスの提供と、利用者、行政、事業者との連携を計る相談支援員の機能の充実をしてほしい。

(4) 公的サービスの内容をわかりやすく市民に周知徹底してほしい。窓口となる行政の職員は福祉担当者としての専門性を持ち、利用者が不利にならないように、事業者、利用者との連携を進めることを求めます。

(5) 車イスを利用している人たちが安心・安全に外出できるように、車イス対応のATM・トイレ・駐車場などを増やすことを求めます。

(6) 車イスや高齢者・障がい者の方が安全に通行できるように、道路の段差や傾斜などの調査・整備を進めることを求めます。整備改良にあたっては、高齢者や障がい者の声を反映することを求めます。

(7) 障がいを持った人が自立して生活できるよう、働く場をもっと増やすことを求めます。

(8) 障がい者就労支援センターの機能を更に充実し、市内のチャレンジ雇用の実現や就業先の開拓を進めるために、ジョブコーチを増やすことを求めます。

(9) 国民健康保険の保険料は、低所得者に負担割合が大きい。もっと所得に配慮した設定にすることを求めます。

(10) NPOなど民間の介護・障がい者団体の職員の社会的評価を充実するように国に働きかけることを求めます。

(11) 福祉の視点でまちづくりを進めてほしい。そのために市内の部局を超えた連携を進め、さまざまな角度から市民や当事者の意見を検討することを求めます。

## ■環境政策への提言

### ①リサイクルよりリデュース（排出抑制）・リユース（再使用）を優先する

毎年、一言提案によるアンケート調査には、プラスチックごみの分別や発生抑制を求める声が寄せられています。今年は、自治体がリサイクルについて保管・収集の膨大な費用を負担していることや、事業者による「拡大生産者責任」が問われている状況を市民にお知らせし、ごみになるものを買わない、出さない「発生抑制」の視点から、私たちに何ができるのか、市に何をしてほしいのかを調査しました。

その結果、市内商店やコンビニ、スーパーなど店頭回収の推進を求める声がたくさん寄せられました。また昨年同様、生ごみの堆肥化や処理について関心が高いことがわかりました。以下は前年度の要望書に加え、市民の声を政策にまとめたものです。

#### ●プラスチックごみは無料袋で回収してほしい

- (1) プラごみは「きれいに洗って水切りを」と書いてあり、市民の協力と努力が求められています。現在プラスチックごみと燃やさないごみは同じ色の有料袋となっていて、混合しやすい状況にあります。「資源」としての意識を高め、排出する努力が報われるように、「プラごみ」を無料袋で回収するシステムを導入し、色の違いで見分けやすくしてください。
- (2) プラスチック容器は販売した店での回収を義務付け、購入した人もその店に返却できるしくみを進める。
- (3) ペットボトルは市の収集を止め、買った店に返すか、公共施設での拠点回収のみにする。

#### ●大型生ごみ処理機は市民の使いやすい機種選択を

- (1) 地域で集合住宅用大型生ごみ処理設置を進めるために、町会や自治会が自主的に処理機を選択し、運営できるための支援とそのしくみを住民参加で進めることを求めます。
- (2) 現在、市が進める乾燥型の生ごみ処理機は電気代がかかるので、微生物による分解力で生ごみを消滅する発酵型の生ごみ処理機を市は推奨すべきです。特に、民間事業所や集合住宅、公共施設に設置する大型生ごみ処理機は、発酵型の機器を利用すること求めます。
- (3) 現在生ごみ処理機の補助金は他自治体より手厚く、かかる経費は膨大です。しかし、使い勝手が悪くて処分されている市民も多く、自分の暮らしに適した処理機を購入し、継続して使用してもらうためのしくみが必要です。機種と比較検討ができる情報提供や手引書の配布などの対応を求めます。

また、生ごみ処理機の補助金を受けた市民へのアンケート調査と回収を充実し、結果の情報公開を速やかに市報などに掲載するよう求めます。

- (4) 生ごみの分別回収を実施することを求めます。

### ●粗大ごみのリユースを促進してほしい

- (1) 小金井市の粗大ごみは、近隣自治体に比較し、その排出量が多いことが判明しています。粗大ごみ受付センターでは、使えるものはリサイクルセンターへ連絡することを市民に周知し、リユースを促す施策をさらに進めることを求めます。
- (2) 第二庁舎の経済課の窓口に不用品交換コーナーが設置されていますが、市民への周知が足りません。市報やホームページ、ごみカレンダーなどにも掲載することを求めます。

### ●転入者や単身者集合住宅の対策を進めてほしい

- (1) 転入者がごみの分別に困らないように、転入届を出した際に立ち寄る説明コーナーを設けて、市民ボランティアを配置し、ごみの分別・減量を周知し、説明を受けた人にはごみの有料袋を手渡すなどインセンティブを働かせることを求めます。
- (2) 現在、市が行っているふれあい収集を拡充するために、高齢者のごみ分別の実態調査を実施することを求めます。
- (3) 単身者のアパートなどで、特に管理人が在中しない集合住宅のごみ出しについてはルールを周知するとともに、転入したすべての市民にごみカレンダーが手渡せるように、不動産業者や管理責任者にも協力を求め、連携できるような施策を求めます。

## ②小金井市環境行動指針の「合成洗剤を極力使わないよう努める」ことをさらに進める。

- (1) 小金井市と市民が協働で作成した「合成洗剤を持ち込まないで」のポスターが公共施設に貼られ、市民や職員に周知され、固型純石けんの使用も少しずつ拡大しています。しかし、周知が不十分なため、小中学校や保育園、公共施設で合成洗剤が使用されていることが市民からの情報提供や議会に提出された資料などで判明しています。市報やホームページでの市民への周知徹底をさらに進めることを求めます。
- (2) 合成洗剤には、国で定めているP R T R法（化学物質排出移動量届出制度）で有害物質に指定されている成分が入っていることがあります。しかし、最も体への影響が大きい乳幼児や妊産婦への周知は充分ではありません。保健センターで行う両親学級で、合成洗剤が身体に及ぼす影響を、講習会やパンフレットの配布などで市民に周知することを求めます。  
またポスターを保育園や幼稚園などに掲示するなど、情報の提供を園長会にお願いするように求めます。
- (3) 「小金井市学校給食の指針」に「洗剤は石けんを使用」が盛り込まれています。調理業務の委託化が進められていることから、石けんの使用を徹底することを求めます。  
また、「洗剤」は「合成洗剤」を思わせるので、「石けん」もしくは「洗浄剤」と表記を改めてください。
- (4) 小金井は「水とみどりのまち」を掲げています。まちの誇りを他市にもP Rし、地下水を汚さないために合成界面活性剤を極力使わないよう、環境行動指針を使ってアピールを徹底し

てほしい。

(5) 公共施設では石けんしか使用しないことを徹底するためにも「石けん使用指針」の策定を求めます。また同時に、グリーン購入の項目にも石けんを入れることを求めます。

### ③除草剤の散布の中止を呼びかけて欲しい

(1) 農薬や除草剤散布による被害は人間の健康に止まらず、犬や猫などの小動物にも及んでいます。除草剤を散布しないように、市報で呼びかけるとともに、駐車場などを管理している管理会社にも指導を徹底するようお願いします。

(2) やむをえず散布する場合は、近隣の学校や市民へチラシを配布し、散布中は旗を立てるなど、周囲への配慮を求めます。

(3) 市民農園なども市民が使用する際には、契約書に農薬や除草剤散布を禁止する理由と文言を盛り込むことを求めます。

(4) 薬剤に頼らずにバイオの力などで、害虫駆除等に取り組む事業者を選定する様に求めます。

### ④電磁波・携帯基地局の健康被害を最小限にするための調査を

(1) 学校や児童館など、特に体の小さい子どもが集まる施設や病院などの周辺の電磁波調査を求めます。また、専門家を呼んで講習会を開き、携帯電話や家庭の電化製品などから出る電磁波についても電磁波回避の仕方など市民に伝えることを求めます。

### ⑤小金井市・エネルギービジョンの策定を求めます

(1) 東日本大震災にともない、エネルギーについての様々な課題が明らかになりました。小金井市民が安心して快適に暮らしながら、いざという時にエネルギーで困らないまちをつくることが課題になっています。

この課題解決のためには、再生可能エネルギーの活用と、省エネルギーの推進によって、地域で創出したエネルギーを蓄え、いざという時やピークシフト対策に活用する《地域分散型エネルギー社会》の構築が必要です。エネルギー政策の基本的な方向を示す小金井市・エネルギービジョンの策定とそれに基づいた政策・事業を計画的に展開するよう求めます。

(2) 太陽光発電など再生可能エネルギー導入には、信頼できる業者の選択、近所とのトラブル回避や、メンテナンスなどさまざまな問題があります。再生可能エネルギー利用の相談に応じられる窓口やそれを担う市民事業団体との協働を模索し、団体への支援を求めます。

(3) 公共施設の屋根を事業者に貸し、太陽光発電を普及させる手法が全国の自治体で進められています。他の自治体で取り組んでいる屋根貸しの手法を参考にしつつ、小金井市でも公共施設の屋根の有効利用を推進することで、再生可能エネルギーの普及につとめるべきです。

その際には高齢者などが避難する福祉避難所などでは、太陽光発電や蓄電池の設置を進めて、

災害時には自前でエネルギーが確保出来る様に行政も必要な支援を行うなど、働きかけていただくように求めます。

(4) 現在、学校ではフィフティ・フィフティ事業の導入にともなって、光熱水費の節減に向けて努力しています。今後学校に負担のかからないように、現在設置されている乾燥型生ごみ処理機を、リース契約時には、電気代のかからない堆肥型や消滅型の機種に変更することを求めます。また、生ごみ処理機にかかる電気代は、個別に使用量を量り、学校の使用量から引いて計算することを求めます。

(5) 公共施設の自販機を減らすことを求めます。

## ⑥安全でおいしい地下水を飲み続けることができるまでに

(1) 東京都の水道一元化事業による水道水の地下水の割合がどのくらいなのか、市報やHPでの情報公開を求めます。

(2) 浄水所の工事や井戸の掘り変えなどで、地下水の汲み上げ量が減っています。地下水約70%の水道水が使い続けられるように、東京都への働きかけを引き続き行うこと、また、市を挙げて地下水の保全に努めることを求めます。

## ⑦放射能対策をさらに充実してほしい

(1) 市内大気中の放射能線量が高くなった場合は、早急に市内放送で全市民に知らせる体制を作ってほしい。市の無線放送が聞きとりにくいので、改善を求めます。

(2) 土壌調査(学校校庭、幼稚園・保育園庭、公園、河川など)は、市民の不安に対応して、上之原会館にある市の測定器でも土壌を測定できるように、要綱などを見直してほしい。

(3) 学校・保育園給食の食材の放射能測定については、今後も引き続き継続し、品目・回数を増やしてほしい。また、市民申し込みの食品を測る、放射能測定室も測定器の適切な修理や買い替えも含め、継続することを求めます。

(4) 学校・保育園給食の放射能対策を充実するため、栄養士と連携して対策の取れるしくみを導入することを求めます。

(5) 小金井の地下水、湧水は、定期的に測定し、情報開示することを求めます。

## ⑧食の安全を求める

(1) 市内で獲れた野菜を利用できるように、地産地消を進めてほしい。

(2) 遺伝子組み換えされていない、添加物の少ない学校給食が供給されることを求めます。

## ■まちづくり政策への提言

### ①安心して自由に移動できるまちに

高齢になるほど、買い物や通院など外出時の移動が困難になってきます。高齢になっても自由に移動ができ、このまちで住み続けるための対策が必要です。

#### ●安心して自転車や歩行でも移動できるまちに

- (1) 高齢化に伴い、自転車などで坂を上がることが困難となる市民が増えてきます。坂下に自転車を置いて、坂上までは歩行で移動できるようになれば、移動の負担も軽減され、坂上の公共施設の利用など活動の範囲も広がります。自立してこのまちで住み続けるために、坂の直下に公的な無料駐輪場や一時置き場を設置してほしい。
- (2) 市内の歩道には自転車が乗り入れ、高齢者などが安心して歩けない状況となっています。二車線の幅広い車道には自転車専用レーンをつくるなど、自転車と歩行者が安心して通行できる対策を求めます。
- (3) 駅前などには地下の駐輪場が多く、高齢者にとっては上り下りの負担が大きい。高齢者にも使いやすいフラットな駐輪場を増やすことを求めます。
- (4) 連雀通りなどの歩道は、急勾配の路面が多く、車椅子や視覚障がいなどの人たちにとって危険な場所となっています。市内の歩道の実態調査を行い、誰もが安心して通れる整備を進めることを求めます。
- (5) 小金井警察から第4小学校、保健センターに通じる連雀通りは、細い歩道が片側にしかないため自転車や歩行者にとって危険な道となっています。この歩道整備を早急に進めてください。
- (6) 高齢者等が外出した時など、道路やバス停など所々に腰を下ろせるベンチを設置することを求めます。

#### ●市民が使いやすいCOCOバスに

- (1) 新型のCOCOバスは後部座席が高いなど利用しにくいとの声があります。バスの形状を変更する際は、高齢者や障害者の意見が反映できるようにしてほしい。
- (2) 市内全域の公共施設や学校、病院、保健センターなど、坂下地域の住民も乗り換え無しで南北を循環するCOCOバスの路線を増やしてほしい。

### ②災害に強いまちづくり

来たるべき首都直下型地震に加え、気候変動による洪水など都市災害は深刻な社会問題になっています。市民の防災への関心も高く、他自治体では地域の特性を踏まえた防災対策を強化しています。

**前回の防災アンケートでは、家屋の倒壊、水や、トイレなどの備えなどに不安を感じている市民が多く、事前に情報を得て、緊急災害時に対応できる環境の整備を求めていることがわかりました。災害時マニュアルの作成や災害マップの配布など、情報の提供が必要です。**

- (1) 震災時は水の確保が必要です。震災井戸を公共施設に設置してほしい。また、今ある震災対策用井戸が本当に災害時も使用できるかどうかを調査し、電気が止まっても使えるような整備が必要です。また自家用発電機や手押しポンプなどの助成金を設置してほしい。
- (2) また、梶野公園のように、いつでも住民が使える手押しポンプ式井戸を他の公園にも設置することを求めます。
- (3) 防災マップを全家庭へ配布してほしい。
- (4) 備蓄倉庫や防災倉庫の点検を全市内で行い、必要な備品の確認と補填を地域住民と協働で実現してほしい。また、いざというときには、倉庫の鍵をすぐに開けられる住民参加の体制づくりを整えることを求めます。
- (5) 家屋の耐震診断、耐震補強への助成の継続を求めます。また、通学路のブロック塀を生垣塀にするために、生垣塀への助成制度を市民に広く周知することを求めます。
- (6) 大地震発生時の火災への不安を抱く市民が多い。幹線道路の街路樹は、延焼を食い止める働きを持つ、葉肉の厚い常緑樹を配置することを求めます。また、各家庭の雨水貯留槽設置の助成制度を啓発し、増やすことを求めます。

### **③その他の進めてほしいこと**

- (1) 今回の調査でも空き家の放置について、小金井市に対策を求める声が複数ありました。手入れされていない空き家は放火の危険性やごみの投げ捨てなど、犯罪や環境面からも社会問題となっています。持ち主に管理の徹底を指導するとともに、今後、空き家の再利用を進める対策を求めます。
- (2) 図書館の閲覧スペースを広くする、人気のある本を増やすなど市民にとって使いやすい図書館の実現を求めます。
- (3) 生態系や生物多様性の確保は環境基本計画でも謳われています。多様な生物や植物が棲み続けられ、循環できる水とみどりの美しいまちづくりを進めることを求めます。
- (4) 玉川上水のグリーンベルト地帯の保存を求めます。特に、整備にあたっては、排気ガスに強い樹木を残すなど環境へ配慮してほしい。
- (5) 公共施設の樹木伐採については、活かしてほしいという市民の声も反映できるようにしくみを整えてほしい。
- (6) 市民との協働を進め、信頼関係を持ってまちづくりをすることを求めます。そのために、市は情報公開と説明責任を果たし、計画段階からの市民参加を行い、一緒に実現を考えることができる仕組みをつくってください。

以上